

# 大 津 朝



千葉県助産師会

第 48 号令和 7 年 12 月

## 1. 会長挨拶

(一社)千葉県助産師会 会長 志村 千鶴子 9 地区 亀田医療大学大学院

2025 年度事業計画は、会員の皆様のご協力とご支援により、滞りなく進めることができました。皆様に心より御礼申し上げます。

厚生労働省は、2026 年度を目処に出産費用の無償化について検討していますが、実際に無償化になる時期はまだ決まっていません。妊産婦の分娩時の費用負担軽減および少子化対策の一環としての検討ですが、分娩費の保険化により本当に妊産婦の負担軽減が実現するのかという疑問も残ります。また、保険化により、分娩を継続できないと回答した産科医療施設は 30～60%という調査結果も示されています(公益社団法人日本産婦人科医会, 2024)。

近い将来、分娩費の保険化が導入されたとき、正常分娩を取り扱う助産所は存続していくことができるでしょうか。そのために、今から備えておくべきことは何でしょうか。助産師は、自然な妊娠・出産の経過や母乳育児を大切に、専門的な知識・技術に基づいて安全で快適なケアを提供します。さらに、その資質・能力を保持していることを、客観的に示すことが重要です。そのためには、アドバンス助産師をはじめ、新生児蘇生法や母体救命のインストラクター等の資格取得も必須と言えるでしょう。助産師の専門性や水準の向上、助産ケアの改革や質の向上を目指して、生涯教育に取り組んでまいりましょう。



### CONTENTS

1. 会長あいさつ	・・・	1
2. 生と性の健康教育委員会研修会	・・・	2
3. 産後ケア(長生・夷隅区)	・・・	3
4. 九都県市合同防災訓練	・・・	4
5. 菜の花会	・・・	5
6. 国際助産師の日	・・・	6
7. 会計からのお知らせ	・・・	7
8. 編集後記	・・・	8

## 2. 生と性の健康教育委員会研修会・交流会報告

生と性の健康教育委員会 横山 鮎美 5 地区

「地区健康教育の実際」 -1 地区 加藤睦さんの中学生向け講座に学ぶ-

当委員会では、6月22日中学生を対象とし、助産師が行う健康教育の実践をテーマに、加藤睦氏による研修会を開催した。

講義では、「何を、どのように伝えるのか」という視点と表現を学ぶことを目的にスライドを用いて授業構成や話の流れ、言葉選びの工夫など、加藤氏のオリジナリティが詰め込まれた内容で、時にユーモアを交えて紹介された。加藤氏の独自性と温かさが随所に光り、参加者の心を引き込むような講義となった。



加藤氏は「性という字は“りっしんべん”を含み、心の働きを表す漢字である」と述べ、「真中の一本の線をまっすぐに通すように、心の生き方を伝えることが大切」と語られた。性教育を「人が幸せに生きるための学び」として位置づけ、ジェンダー平等や多様性を尊重する姿勢を育てる意義が強調された。

また、性的同意を例えた動画「紅茶と同意 (Tea and Consent)」を用い、同意とは相手の気持ちを尊重することであると説明された。さらに、身体の変化については、「射精」と「月経」という捉え方ではなく、「排卵」と「射精」を関連づけ、生理学的な視点からも説明された。男女の身体がそれぞれのしくみに基づいて科学的かつ平等に変化していることを、中学生が理解できるよう工夫されていた。性感染症の予防や避妊、アフターピル、特別養子縁組など、思春期以降に必要な支援知識も幅広く紹介され、現場で生かせる具体的な内容となった。

講義後のグループ交流では、「性教育は生きる力を伝える教育である」「信頼できる大人でありたい」など、参加者同士の率直な意見交換が行われた。子どもの感想や反応を次の授業に生かしたいという声や、PTA 活動や時代の変化に合わせた性教育の在り方を見直す意見も挙がった。また、「NO」と言っていることを子どもに伝えるだけでなく、自分にも向けたい」「自分にも相手にも優しくありたい」といった、講義内容を自身のあり方に重ねる感想も聞かれた。

さらに、現場で直面するリアルな課題も共有され、「困ったときに相談できる関係をつくるのが大切」という言葉が、多くの参加者の心に響き、深い共感と理解が示されていた。長年講師を務めてきたベテラン会員方や、これから思春期の健康教育に携わりたいと考える会員まで、各々の立場から互いの思いを素直に語り合う様子が印象的であり、会場には穏やかな一体感と交流の輪が広がっていた。各グループから、助産師として子どもたちの心に寄り添い、安心して話せる関係づくりを大切にしたいという思いが伝わってきた。加藤氏の「講義をした瞬間から信頼される大人でありたい」という言葉は、助産師が性教育に臨む際の、いのちに寄り添う心の深さと真摯な姿勢を改めて問い直すものであり、その真意は参加者一人ひとりの中で解釈や気づきからの発展へと繋がっていた。

今回の研修会を通し改めて、生と性の教育が「いのちと心をつなぐ学び」であることを再確認した。今後も、こうした学びの場を通じ助産師同士の繋がりと、実践がさらに豊かになることを願っている。

〈最後に〉

研修会には、学び・出会い・笑顔のヒントがギュッと詰まっている。日々の実践を支える、気づきや励ましが多くある。皆様も一歩踏み出し参加して頂けたら、きっと「行ってよかった！」と思える時間になるはずです。次回も多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

### 3. 産後ケア（長生・夷隅地区）

羽鳥 恵美 6 地区 ハッピーマンマ羽鳥助産院

私は現在、人口 6500 人に満たない長生郡睦沢町にて母乳育児相談室を営んでいます。睦沢町は、年間の出生数は 25 人(令和 5 年度)と、いわゆる過疎地域です。長生郡市(茂原市、睦沢町、一宮町、白子町、長柄町、長南町、長生村)全体でも、昨年度は 563 人の出生数でした。

長生・夷隅地区では、産後ケア事業開始当初より、助産師個人と各自治体が各々で契約を交わし、アウトリーチ型産後ケア事業を請け負っています。各自治体で産後ケア事業の形態や内容は微妙に異なります。例えば、長生郡市では、宿泊型、デイサービス型、アウトリーチ型それぞれ最大 7 回までの利用となっています。利用方法は、産後ケア事業申請時に利用予定の施設を選択し、基本的に登録してある病院や助産所を継続的に利用することとなっています。また、いすみ市はではアウトリーチ型とデイサービス型を合わせて最大 14 回利用が可能です。利用者はいすみ市と提携している病院・助産所リストから自由に選択し、直接利用予約を行なえることがメリットだと感じています。さて、私個人の話になりますが、産後ケア事業が始まったことで以前に比べ利用者が増加傾向にあります。現在、5 歳と 2 歳児を育てる二児の母でもあり、連日や週末のご予約を請け負えないことがあります。そこで、同地区の助産師に相談し、また保健センターと連携を図り、他の助産師が私に代わって訪問ケアをして下さることもありました。また、最近では助産師としての在り方について感じたことがありました。精神疾患の既往がある方のケアを担当させていただいた時のことです。時には通常より 2 倍の時間をかけて対応させて頂いたり、時間外の電話やショートメールでの相談も対応することがありました。その際も同地域のある助産師に「個人だけで抱えるのではなくチーム戦でいきましょう」という言葉をいただき、一人で抱えていた重荷がすっと下り、気持ちが楽になった事がありました。利用者と提携先の助産所が固定されてしまうと、一人で抱えてしまいがちですが、こうして産後ケアに携わる他の助産師や保健師、場合によっては医師とも連携を図っていく事が大切であることを実感しました。こうして子育てをしながらも、支えて下さる方々に囲まれながら、この地域で助産師として働いている状況に本当に感謝してもしきれない思いでいっぱいです。

最近では、今後更に良い産後ケアを提供できるように、来年度に向けて各自治体に「支援の必要性の高い利用者の受け入れ加算」について各自治体に申し入れをさせていただきました。どの母親も安心して育児が出来るよう、より計画的により良い支援ができるように邁進していきたいと思えます。



## 4. 九都県市合同防災訓練

災害対策委員会委員長 金子真理恵 7地区 リンコイ助産院

10月19日(日) 館山市で開催された第46回九都県市合同防災訓練に参加しました。

### 防災フェア

災害時の母子支援に関する啓発や助産師の活動紹介、妊婦ジャケットを使用した妊婦体験や赤ちゃん人形での抱っこ体験等を行いました。

お子様連れのご家族や妊婦の方をはじめ、他団体の関係者の方々にお越しいただき、にぎわいのあるブースとなりました。(赤ちゃん人形抱っこ体験 57名、妊婦体験 23名、避難グッズ・展示等 14名)。立ち寄ってくださった皆さまにアンケートにご協力いただき「女性の方へリスペクトと最大限の配慮を...と感じました」「(さらしを使った抱っこ体験)体にピッタリして赤ちゃんも安心。すぐに実践します!」「よいパパで災害時も動けるように頑張ります」といったお声をいただき、今後の活動への励みとなりました。また、アサヒグループ食品株式会社様よりご提供いただいた試供品を来場者の皆様に配布し、たいへんご好評をいただきました。

### 避難所運営訓練

今年も、DMATをはじめとした医療福祉の支援チームと合同で訓練に参加しました。

【DMAT(災害派遣医療チーム)・JRAT(災害リハビリテーション支援関連団体協議会)・DWAT(災害福祉支援チーム)・歯科医師会・薬剤師会・助産師会】

支援チームでは各団体の職能を生かした災害時支援についてディスカッションしました。避難所運営委員会では地域住民の皆様と共に、避難所のレイアウトについて意見交換会を実施、赤ちゃんや女性のスペース、車椅子利用者の動線など多様性を考慮した意見交換が行われました。助産師会ではファミリー向け防災講座『「いつも」から「もしも」まで! 助産師とレッツ防災!』クイズを交えた楽しい講話を行いました。

千葉県庁をはじめとした行政機関、医療福祉団体、そして地域住民の皆様との交流と通してとても有意義な災害支援活動を行うことができました。ご協力いただいた9地区会員の皆様、試供品をご提供下さったアサヒグループ食品株式会社様、カネソン株式会社様、各関係団体の皆様ありがとうございました。



支援チーム担当業務

SRAT (NAC) 職  
 ・要介護者への交換  
 ・服不履への調整

JDAT (歯科医師受)  
 ・妊産者の口腔ケア  
 ・口腔ケア用品の分配  
 ・D7コフ (歯科器具ユニット)

薬剤師会  
 ・投薬の予配  
 ・受診の判断  
 ・妊産者の服用薬の確認  
 ・診察チームの交換

助産師会  
 ・県内15の市と指定制  
 ・一帯帯に受け付け  
 ・母子交換の緊急時の介入  
 ・1500名 産後ケアの提供  
 ・産後のケアの提供  
 ・妊産者 産後ケアの提供  
 ・妊産者 産後ケアの提供  
 ・妊産者 産後ケアの提供

DWAT (福祉支援職)  
 ・復元 - 前向きな対応が必要  
 ・生活への対応  
 ・障害の対応  
 ・女性と相談する  
 ・メンタル支援  
 ・全体的な問題の相談  
 ・育児 産後ケアの提供  
 ・育児 産後ケアの提供



母親の大変さが  
 わかりました。  
 意外と重くて  
 貴重な体験  
 でした!

いいパパ  
 があれるよう  
 頑張ります!

良いハルで  
 災害時も  
 頼りやすい  
 頑張り村!!

母親の大変さを  
 身にしみて実感  
 することができました。

## 5. 菜の花会

2025年11月23日(日)ホテルポートプラザにて菜の花会が開催されました



左: 志村会長挨拶

右: 根岸副会長の乾杯



## 6. 第21回国際助産師の日のつどい

国際助産師の日のつどい実行委員 小林由美子 1地区 こばやし助産院

2025年7月13日に、流山市にあるスターツおおたかの森ホールにて、「第21回国際助産師の日のつどい」テーマ「地域でつながる！はぐくむ！ファミリーウェルネス with 助産師」を開催しました。地域の子育て支援12団体からキッチンカーやブース出展をしていただき、助産師と共に地域の子育てを支えていく連携づくりと地域への周知を目的としました。

1地区助産師による5～8歳の子どもとその保護者を対象とした性教育講座では、工夫を凝らし、子どもが最後まで飽きない講座を作りました。自分のからだと心を大切にすることについてワークを交えながらお伝えし、子どもたちも楽しめたようです。参加者のアンケートでは全員が「満足」「大変満足」と回答がありました。また、担当助産師の性教育への関心と自信が高まり、今後の発展が楽しみです。

特別講演には、人材開発やコーチングの先駆者、菅原裕子氏をお呼びし、70名の参加がありました。子育てに必要な3要素、「愛すること・責任・人の役に立つ喜び」の中身を学び、それをどう実践していくか、二人組になってのワークも交えて、あっという間の2時間でした。「子育てに自信がなかったが、気持ちが楽になりました。できることから始めます。」という現役のお母さんからのアンケート回答や、お父さんからも「参加してコミュニケーションの大切さがわかりました」と回答があり、高校生からは「自分に子どもができれば、たくさん愛を伝えようと思いました。素晴らしいことを学べてよかったです。」と回答をいただき、98%が「満足」「大変満足」との結果が得られました。年代を問わず皆様が満足した表情でお帰りになりました。主催した私たちもやって良かったと充実感を得ることができました。

支援団体の展示ブースでは、スライム遊びや福祉ネイル、地元野菜の販売などが行われ、団体様同士の繋がりもでき、次のイベントに繋がれたと報告を受けています。各々の団体が手を取り合っていくことで、より大きな子育て支援の力になると確信できました。

今回のイベントの機会をいただけたことで、助産師という専門性を改めて認識できたことと、助産師が他職種や団体と手を取り合って子育てを支援していくことの必要性も改めて感じました。特に、地域で活躍されている諸団体の皆様のご意見を真摯に受け止め、助産師活動に活かしていくことで、更に助産師の専門性を発揮できるのではないかと感じました。後援していただいた千葉県や流山市を始め、周辺の自治体の皆様、子育て支援団体の皆様に心より感謝申し上げます。また、それぞれが多忙な中で、尽力してくれた仲間たちに「ありがとう」を心から伝えたいです。



## 7. 会計からのお知らせ(2026年度会費について)

◎口座振替での納入にご協力をお願いします。

### 【正会員会費】

・継続の場合:23,000円 (日本助産師会 15,000円+千葉県助産師会 8,000円)

### 【口座振替日・振込取扱票での入金締切日】

・第1回:2026年2月24日(火)

・残高不足がないよう口座振替日の前営業日までにご準備をお願いします。

### 【振込】

・2025年12月末日までに口座振替手続きをされていない方は、同封の払込取扱票にて入金をお願いします。

### 【口座振替の登録・変更】

・日本助産師会HPの会員マイページ>>会員情報の変更・確認>>口座情報>>口座変更申請より手続きを行ってください。

・口座振替手続きを2025年12月末日までに完了された方は二重入金防止のため、同封の振込取扱票を破棄してください。

### 【退会・他県への移動】

・2025年度末(2026年3月31日)をもって退会や他県へ移動をすることがお決まりの方は、2025年12月末日までに以下のどちらかの方法で手続きをお願いします。

① 日本助産師会マイページから申請

② 日本助産師会機関紙「助産師」の巻末の変更届・退会届を郵送

※郵送には日数がかかりますので、余裕をもって申請をお願いします。

※年度途中で他県への移動が確定した方は、移動手続きを速やかにお願いします。当会の会費規定により、年度途中の移動における千葉県助産師会費の返金はありません。

### 【会費の領収書】

・日本助産師会HPマイページからダウンロード・印刷をお願いします。

### 【会費に関する締切期日】

2025年12月末日

:(口座振替手続き希望の方は)手続き完了最終締切日

:(今年度末に退会や他県へ移動が確定している方は)退会・移動手続き締切日

2026年2月24日

:(口座振替手続き済の方)2026年度会費の口座振替日

:(口座振替手続きをされていない方)払込取扱票での入金締切日





# おしらせ



## 1. 研修会について

※詳細は千葉県助産師会ホームページ("http://www.midwife-chiba.org")にてご確認ください。

開催日	時間	研修会名	場所	担当
1月25日	10:00~11:30	「外国人母子への助産ケアで大切なこと」	Zoom	教育委員会
2月28日	9:30~11:30	保健指導型助産院のBCP作成研修	千葉市生涯学習センター	安全対策・災害対策・保健指導部合同

## 2. 理事会の日程1月~3月

	開催日	時間	場所	
第6回	1月25日(日)	9:30~12:30	Zoom	
第7回	2月15日(日)	9:30~12:30	Zoom	
第8回	3月15日(日)	9:30~12:30	千葉市民会館	

## 3. 100周年記念事業について

1. 千葉県助産師会100周年記念誌は令和8年9月発行予定。

【会員の皆様へ】 記念誌発行にあたり寄稿や写真提供などのご協力をお願いいたします。

2. 100周年記念行事

・日時 令和8年9月26日(土)9:00~15:00 ※開催時間は目安

・場所 ホテルポートプラザらば(千葉市中央区千葉みなと8-5) 大宴会場「ロイヤル」

記念行事では100周年の節目を皆様と共に祝いしたいと思います。万障お繰り合わせの上、是非ご出席ください。

## 4. 庶務から【会員情報の確認・変更・各種手続き】の方法について

【会員情報の確認・変更・各種手続き】は、会員自身で可能です。

日本助産師会ホームページ→会員ログイン→会員マイページトップの「会員情報の確認・変更」

→修正内容を入力して、会員情報更新ボタンをクリック⇒完了です

\*なお、千葉県助産師会代表メール [info@midwife-chiba.org](mailto:info@midwife-chiba.org) へのご連絡は必要ありません。

## 編集後記

2025年も残りわずかとなりました。皆さまにとってどんな一年だったでしょうか。来年2026年は千葉県助産師会創立100周年です。100年という歴史の重みを胸に、次の時代を担う助産師たちがますます輝けるよう、助産師同士のつながりを深め、そして関わりあうすべての母子との温かな絆を大切に、皆さんの活動や笑顔をたくさん紙面に載せていけたらと思います。ご協力くださった皆さま、そしていつも読んでくださる会員の皆さまに心から感謝いたします。どうぞ健やかに、良い年末をお過ごしください。

広報委員: 齋藤明子・佐藤幸江・富田三奈子

